



# コミュニナリリビング（共同生活）の 現代的意義について

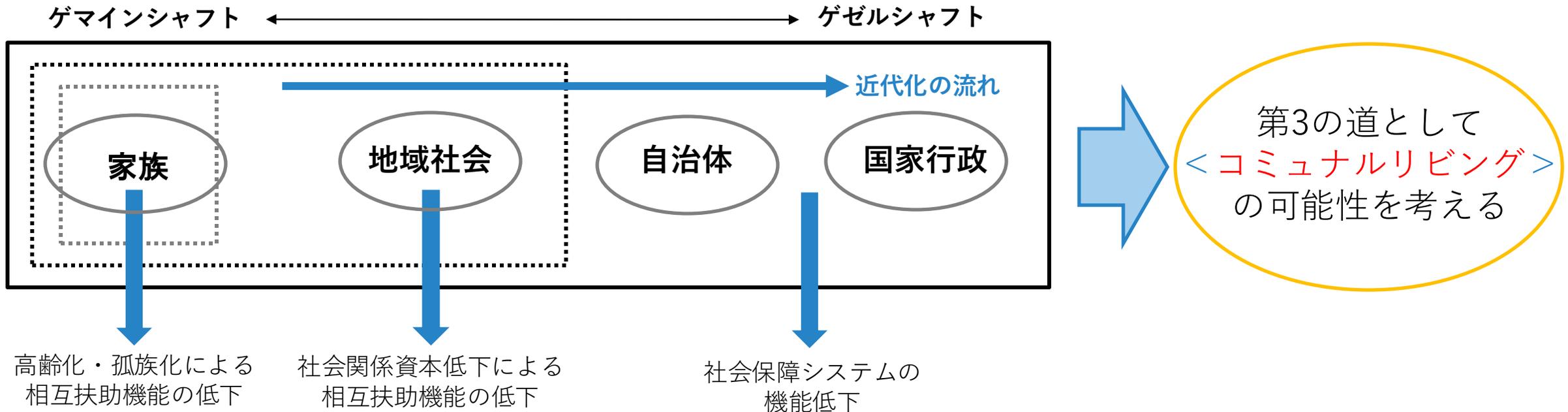
齋藤 徹

## < コミュナルリビング（共同生活）とは >

- 血縁、婚姻などの繋がりにより親密圏を形成する家族や親族、もしくは居住の物理的近隣性による村落、集落などとは異なる、「特定の理由に基づき集った人々がともに暮らすあり方」のことを指す

## < コミュナルリビングを論文テーマとして取り上げた理由 >

- 家族・コミュニティに象徴される「ゲマインシャフト機能」、行政や自治体による社会保障制度に象徴される「ゲゼルシャフト機能」が共に低下を示す現代において、近代社会の初期からさまざまな形で現れて来た来歴の異なる人々が共に暮らすコミュニティリビングの歴史的系譜と生活実態を調べるプロセスを通じ、新しい親密圏を形成するあり方を考えるためのヒントを得ようとするもの



### 序章

#### 第1章 コミュナルリビング（共同生活）の定義と歴史推移

- ・欧米における各種コミュニティリビングタイプの系譜と概要について記述

#### 第2章 ロバート・オウエン「ニュー・ハーモニー」の検討

- ・社会改良型コミュニティリビングの始祖であるロバート・オウエン「ニューハーモニー」を取り上げ、オウエンがいかにこのコミュニティリビングを構想するかに至ったか、加えて、そこに含まれる「平等」という思想を、当時の市民社会の萌芽とルソー『社会契約論』との関連において考察

#### 第3章 日本におけるコミュニティリビングの系譜

- ・日本におけるコミュニティリビングの系譜を明治期から現在に至るまで辿り、欧米におけるコミュニティリビングのタイプとの差異について考察。欧米とは異なる日本的コミュニティリビングのタイプとして「ケア型コミュニティリビング」があることを指摘

#### 第4章 考察とまとめ

- ・コミュニティリビングの諸類型の歴史から学び取れる現代的意義について考察

空想型

実在型

空想としての  
コミュニリビング  
(ユートピア型CL)

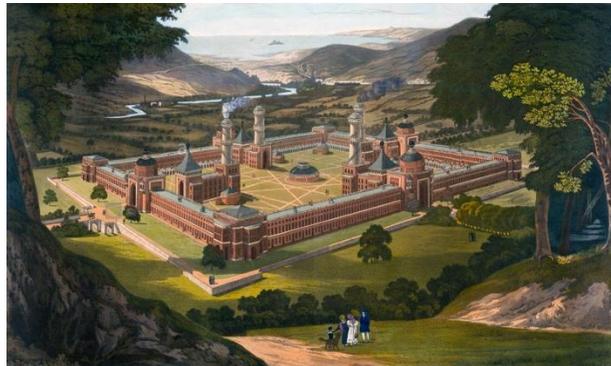


EX)トマス・モア  
「ユートピア」

宗教型  
コミュニリビング  
(18C~)



シェーカー・コミュニティ  
社会改良型  
コミュニリビング  
(19C)



ロバート・オウエン  
「ニュー・ハーモニー」

キブツ型  
コミュニリビング  
(1900~)



イスラエル「キブツ」

スピリチュアル型  
コミュニリビング  
(1960~)



米国「ドロップスター」

コ・ハウジング型  
コミュニリビング  
(1970~)



リタイアメント型  
コミュニリビング  
(1970~)



## 5. 各コミユナルリビング（CL）の特徴

宗教型CL	<ul style="list-style-type: none"><li>● 18世紀から19世紀初頭に誕生。多くは欧州各国母国で信仰上の迫害を受け、米国移住し、共同生活の居を構えたものが中心</li><li>● 宗教型コミユナルリビングの寿命は、おおむね数年から数十年が殆ど。「シェーカー・コミュニティ」、「フッター派」のように現在に至るまで250年近く活動が続けている共同体も存在</li></ul>
社会改良型CL	<ul style="list-style-type: none"><li>● イデオロギーに基づく共同生活体。資本主義の発達にともなう貧富の差の解消を主目的とし、共同生活を通じ、皆が平等に自立生活できることが目標とされた。</li><li>● 寿命は長くても20年程度。殆どわずか数年で活動寿命を終えた。</li></ul>
キブツ型CL	<ul style="list-style-type: none"><li>● シオニズムの影響を受けイスラエルで独自に発達したコミユナルリビング</li><li>● 現在、約300弱のキブツが国内に散在</li><li>● 先端中核技術を保有するキブツ組織も存在</li></ul>
スピリチュアル型CL	<ul style="list-style-type: none"><li>● 20世紀初頭から独特の精神世界への傾倒や終末思想を元に共同生活を始める動き</li><li>● 多くは短期間で消滅したが、一部は現存</li></ul>
コハウジング型CL	<ul style="list-style-type: none"><li>● 1970年頃よりデンマーク・スウェーデンなど北欧に起源を持つ動き</li><li>● 多数の異家族が同一地区に住まい、生活の一部を共同化しようとする試み</li></ul>
リタイアメント型CL	<ul style="list-style-type: none"><li>● 高齢者を対象とした住宅コミュニティもしくは複合住宅</li><li>● 共同生活は営まれるものの、多くのサービスは介護スタッフや職員による提供が中心</li></ul>

ロバート・オウエン（Robert Owen,1771-1858）

- 第一次革命の中心産業であった繊維産業分野で能力を発揮
- 紡績工場支配人および経営者として事業的成功をおさめる
- 経営するニュー・ラナアック工場で各種の改革を発揮
- 「機械使用による人間労働の意気低下」の打開策として、産業資本家社会ではなく、共同社会による「一致と相互協同の農・工業村」を創設すべしと主張

→ アメリカ合衆国で「ニュー・ハーモニー」の創設、建設に奮闘

- ① 農業、もしくは工業を中心とする自給自足経済への志向
- ② 私有制度の放棄、共有制度への志向
- ③ 全員参加型によるコミュニティ運営

底流に流れる「平等」という概念



ジャン=ジャック・ルソー『社会契約論』（1762）

- 理論の主骨格には「一般意志」という概念が据えられ、それにより実現されるべき究極目的は、すべての人々の自由と平等であるとした。
- 個人の主権の一部もしくはすべてを主権としての国家に贈与する見返りとして、市民は市民としての平等な権利を再配分される

→ルソーによるこのような思想背景を根拠としてオウエン、フーリエなどのユートピア社会主義者が誕生

- 江戸時代から戦前に至る農本民主主義思想の流れに平等思想や共済共存共同体の源泉が見て取れるが、実際のコミュニティリビングの登場は社会主義思想、共産主義思想が次第に広がった明治末期から大正以降

戦前

武者小路実篤  
「新しき村」



社会改良型CL

一燈園（京都）



宗教型CL

心境同人  
（奈良）



宗教型CL → ケア型CL

幸福山岸会  
（三重）



宗教型CL (ケア型)

戦後

共働学舎  
（長野・北海道）



ケア型CL

木の花ファミリー  
（静岡）



スピリチュアル  
型CL

コレクティブハウス  
「かんかん森」



コハウジング型  
CL

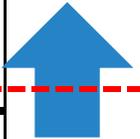
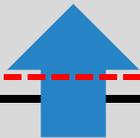
COCO湘南台



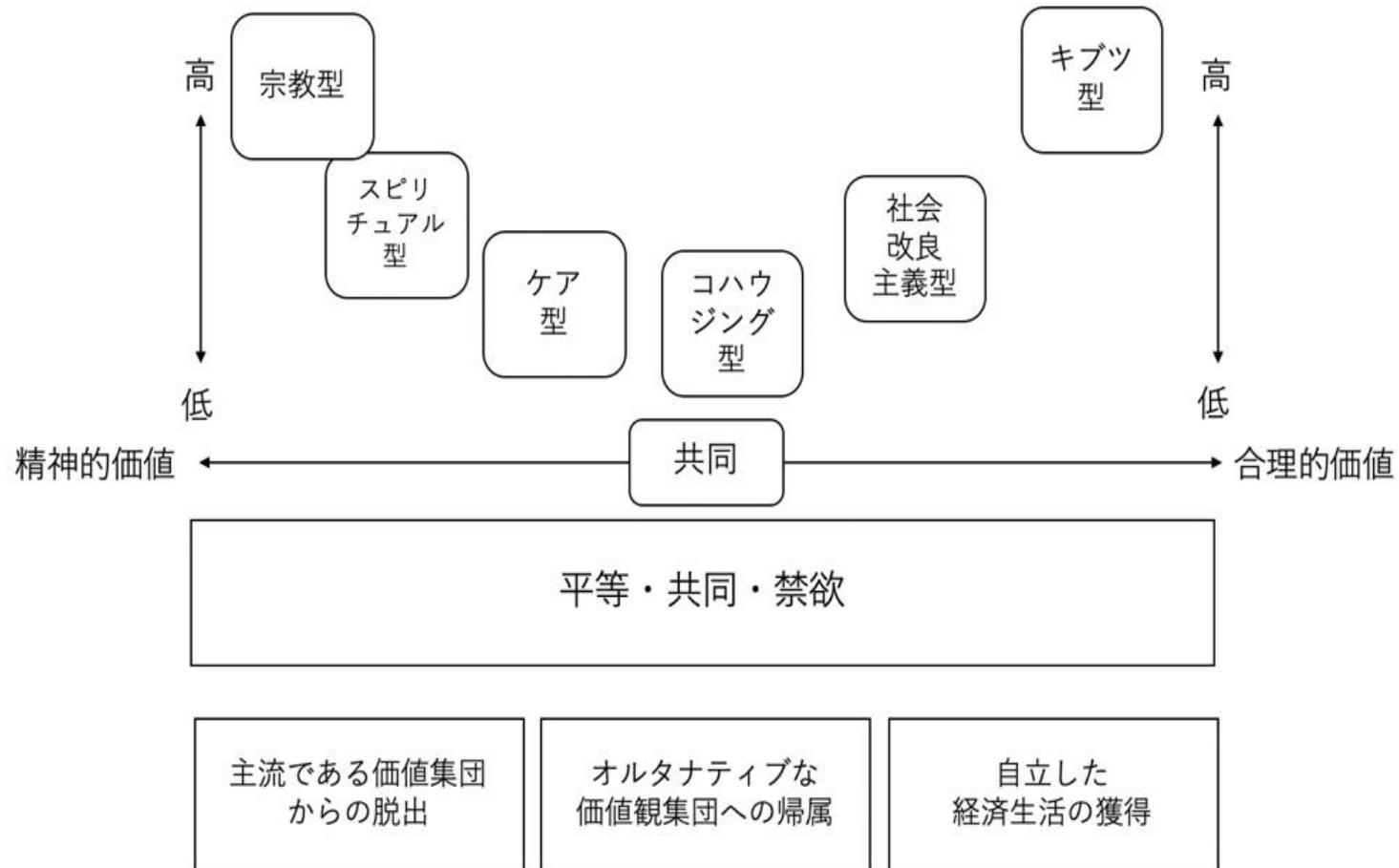
コハウジング型  
CL (高齢者ケア型)

- 日本独自のスタイルとしてのケア型コミュニティリビングの存在
- 既存の福祉事業の枠に囚われない、より自律的な福祉生活のあり方を求めようとする人々の動き

時代	近世・前近代社会	近代（初期）	近代（中期）	近代（後期）
年代	18世紀	19世紀半ば～20世紀初頭	20世紀半ば	20世紀後半～現在
コミュニティリビング ・タイプ	宗教型 コミュニティリビング	社会改良主義型 コミュニティリビング	スピリチュアル型 コミュニティリビング	コハウジング型 コミュニティリビング
		キブツ型 コミュニティリビング	ケア型 コミュニティリビング	リタイアメント型 コミュニティリビング
時代背景	封建主義・宗教社会	資本主義	経済成長によるゆがみ	コミュニティ ・家族の崩壊
	信仰迫害	資本家・労働者格差	反体制志向	社会保障のゆらぎ



- ①主流となる価値集団からの離脱とオルタナティブな価値集団への帰属
- ②「平等」と「共同」
- ③禁欲性



コミュニアルリビングに  
共通する要素

- ▶ 主流となる価値集団からの脱出
- ▶ オルタナティブ（別）な価値集団への帰属

▶ 常に**非主流派**としての存在  
永続性をいかに担保するか

## コミュニアルリビングが永続性を担保するための条件

- 一般的で普遍的な存在になるための価値の転換
- 多数の人々が賛同してくれる社会課題解決のための一般的共通価値を持つこと

### 「食」

- コミュナルリビングの歴史を通じ、必ず共同化される生活行動の原単位
- 共食行為は、人と人との紐帯を強める上において必要欠くべからざるもの
- EX) 「子ども食堂」は食を通じて地域の社会関係資本を回復させる動き

### 「宗教倫理」

- 多くが短命で終わる中、永続性を担保しているCLは宗教型・スピリチュアル型
- 現代においてはそうした宗教的イデオロギーを除いた、もしくは薄めた上で、禁欲性を集団が保有するための新たな思想性を獲得することが必要